

2月16日校長講話

みんなで伸びる

これは10年前の戸倉上山田中学校のテニス部の写真です。

校長先生が監督をしていました。とても強くていいチームで、長野県に100以上の中学校のチームがある中で、3番目に強いチームでした。長野県の多くの学校が目標にするチームでした。どうしてそんなに強くていいチームになったかというお話を今日はします。



みんな運動神経が良くて、足が速くて、力もあって、そういう人が集まっていたからだと思いますか？そうではありません。このチームは**みんなで一緒に成長するチーム**だったので。

具体的なお話を2つします。

一つ目：上手な人が進んでみんなのために練習の手伝いをする

同じにテニスを始めてもすぐに上手にできる人とそうでない人がいます。早く上手になると、できない人を見下して、いばる人がいます。下手な人を陰で馬鹿にしたり、失敗を見て「何でできないんだ」という顔をしたりする人がいます。みんなの周りにはそういう人いませんか。

このチームの人たちはそうではありませんでした。上手な人ほど「大丈夫、大丈夫」「ドンマイ」と言って励まします。そして、上手な人ほど進んで練習の手伝いをしました。テニスの練習は、相手のコートからきたボールを打ち返すという練習が多いのです。いいボールを打ってあげないと打ち返すことができません。練習のボールは、3・4秒ごとにねらった所に打たなければならないので、疲れるし神経も遣うのでとても大変です。これを上手な人ほど進んでやってくれました。上手な人が打つといいボールが来るので誰もが上達します。だから、上手な人だけでなく、チームの全員が上手になります。チーム全体がレベルアップして、その中で練習し試合をするから、上手だった人もさらに上手になり強くなっていきました。

二つ目：互いに教え合うことをした。

「ラケットの面はこうするといいよ。」「今のは、このコースの方がいいよ」とアドバイスをしていました。最初は先生が「Aさんが悩んでいるから、あなたの打ち方を教えてやりなさい」とか「(うまくできなくて困っているBさんに)Cさんのフォームがいいから教わっておいで」というように言っていました。そのうち、先生に言われなくても自分たちで教え合うようになりました。それは、教え合うことの良さがよくわかったからです。

教えてもらってできるようになった人はもちろんうれしいし、その喜んだ顔を見たり、「ありがとう」と言われたりして、教えた人も嬉しくなりました。すると、信頼が生まれ、まともにも強くなってきます。こうなると練習がもっと楽しくなるのです。

実はこの時、教えた人にもとってもいいことがありました。人に教えるには、自分ができていることが、どういう理由でできているかをきちんと分かっている必要があるのです。だから自分の打ち方を見直して「ポイントはこれだ」というのをみつけて相手に伝えます。こう

して見直しておく、自分がスランプになってうまくいかなくなった時に役に立つことがわかりました。ポイントを思い出して修正できるからです。

自分のことだけ考えるのではなく、まわりの人のことも考えて練習することで、みんなで成長していきました。それがどんなに楽しくて価値があるかということをこのチームは知っていました。だから強いいいチームになったのです。

学級も同じです。校長先生はよく授業中のみなさんを見に行き、教え合う姿を見ることがあります。

ある学級の算数の授業では、教科書の問題、プリントの問題全部終わった人は、できていない人の所へ行って教えていました。

体育の縄跳びの授業では、友だちの跳んでいる回数を数えている人がいました。あやとびや交差跳びを教えている人がいました。

そこには、できない人を下に見てバカにする。自分ができればそれでいい。テストの点が人と比べて良かったから満足だ。そんな姿はありませんでした。教えあうことやみんなで伸びていこうとすることが楽しくて、価値があるのだという姿でした。

さて、みなさんの学級はどうですか。学年はどうですか。そして、戸倉小学校はどうでしょうか。3学期、1年間のまとめの時期です。みんなで一緒に成長して1年のまとめをしましょう。